

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4272300254
法人名	有限会社 ウエルサポート
事業所名	グループホーム 第二わらび苑
所在地 (電話番号)	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西浜郷1622番地63 (電話) 0959-37-0507

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年12月25日	評価確定日	平成20年5月7日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤 3人, 非常勤 5人, 常勤換算	6.25人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	ユニット1:鉄骨造り	ユニット2:木造
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.01 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浦口医院、日浦病院、真珠園療養所、山根歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

主要道路から少し入り込んだ閑静な新興住宅地の奥まった一角に位置し、緑に囲まれた自然の中に建築されている。ホーム長が入居者、家族、地域の方、職員が一緒になって、辛い事も悲しい事も楽しい事も、皆で急がずゆっくり、楽しく過ごしてといこうと日々、あきらめないケアに取り組んでいる。常に「これでいいのだろうか」という意識に立ち返り、職員にも繰り返し指導している。地域密着について深く考え地域に溶け込むために自分たちから意識して関わったり、家族の思いを基に地域の方のお力添えを頂きながらホームの祭りを行ったり、常に一つ一つの行為も地域へ結びつけるよう意識付けが出来てきたところである。小学生の社会科見学の受け入れやホーム長が保育園にお願いに伺ったり、お琴の師範免許をお持ちの方に演奏に来て頂く等、地域の方との交流に積極的に関わっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を基に全職員で改善策を話し合い取り組み、地域密着型サービスのホームが果たす役割として、市からの依頼で“家族介護教室”を他の事業所と協同して取り組み、地域との交流を考え、行事への参加も積極的に取り組み改善に努めている。日常のケアの場面で常に理念に照らし合わせ話し合っており、介護する側の立場だけではなくお互い支えあっているという視点で援助し、センター方式を取り入れたアセスメントや入居者主体の介護計画に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価ガイドブックを基に項目毎に説明を行い全職員で話し合い、自己評価をする中で、ケアについて再認識すると共にケアの意義を見出したり、気付きにつなげ意識して取り組む原動力になっている。評価結果に基づき全職員で改善策を検討し取り組みを続けている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>6事業所合同で運営推進会議を開催し、運営状況報告や意見交換等を行い、合同開催により適度な緊張感と客観的な視点で見ることが出来き、提案やご意見も率直に言って頂き改善につながっている。西海地区ケア研究会を立ち上げ、ケアや運営、制度について等の勉強会を行い、市の担当者にホームの活動状況や活動内容等、情報提供を継続に行ったり、打ち合わせや相談等で行き来する機会は比較的多い。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>外出時の写真やホームでの状況等を職員が書いて毎月お送りしたり、来訪時に近況報告をしたり電話でお伝えしている。ホーム長は“常にこれで良いのかな”という思いに立ち戻り、入居者の顔を見て安心し喜んでいる半面、淋しい思いもしている家族の奥深い思いを押し量り、安心して頂けるよう努めている。笑顔で心がけ言葉使いに気をつけて対応し、常に意識してご意見頂けるように声かけをするよう職員に伝え、苦情等があれば全職員で考えて対応する体制は整えている。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>家族から業務用のかき氷の機械があり“皆さんに食べて頂きたい”という思いから、地域や家族の方等呼びびて夏祭りが開催された。歌や踊りや太鼓サークルの参加、会場作りや食べ物準備や後片付け迄、地域の方にお手伝い頂き、来年のボランティアの予約も頂いている。入居者と一緒の花祭りで甘茶を頂いたり金毘羅神社の祭りの見学やお賽銭をあげたりしている。小学生の社会科見学の受け入れや、空き瓶回収に取り組み始めた。</p>
重点項目 ④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いそがず、ゆっくり、つらい事・悲しい事・楽しい事も、家族や地域の方も一緒に、入居者が地域の中で“その人らしく暮らす”という思いで『みんなで、いっしょに』という理念を設立時に作成したが、地域密着型サービスの役割としてH.18. 4に地域の方にも解りやすいよう『住み慣れた地域で、地域住民との交流の下で』という言葉新たに理念の中に加えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に2回のミーティングの中で、折に触れケアが理念に基づいた行動であるか、入居者本位になっているか確認している。日々の現場の中でサービス提供時の言葉かけ等、気になる時はその都度注意したり指導すると共に、ホーム長が申し送り帳で提案し、職員は必ず目を通してから業務に就き徹底し、皆で今後も取り組みを続け理念を共有し、実践に向けて取り組んでいきたいと考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	家族から夏祭りのお尋ねがあり“かき氷を皆さんに食べさせたい”との思いで地域や家族の方、ホーム建設に関わった方、文具屋さん等をお招きして、歌や踊りや太鼓サークルに参加され、会場作りや食べ物の準備や後片付け迄、地域の方にお手伝い頂き来年のボランティアの予約も頂いている。入居者と一緒に花祭りで甘茶を頂いたり、金毘羅神社の祭りの見学やお賽銭をあげたりしている。小学生の社会科見学の受け入れや、空き瓶回収の取り組みを始めた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長は毎日のミーティングで、サービス評価ガイドブックを基に項目毎に説明を行い検討し管理者がまとめた。全職員で話し合いを行い自己評価をする中で、日常のケアについて再認識すると共に、ケアの意義を見出したり気付きにつなげ、意識して取り組む原動力になっている。前回の評価結果に基づき、全職員で改善策を検討し取り組みを続けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	系列事業所の理事長の発案で西海地区ケア研究会を立ち上げ、ケアや運営、制度について等の勉強会を行っている。市へ相談し6事業所合同で運営推進会議を開催し、各事業所の入居者家族、地区の区長や民生委員、管理者、市職員や包括センター職員等が参加し、運営状況報告や意見交換等を行っている。合同開催により適度な緊張感と客観的な視点で見える事が出来き、家族から「此处で良かった」という声も聞かれ、提案やご意見も率直に言って頂き改善につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者にホームの活動状況や、活動内容等の情報提供を継続に行っている。西海地区ケア研究会が市から委託を受け、6事業所合同で“家族介護教室”を月に1~2回行っており、打ち合わせ等その都度相談したり、行き来する機会は比較的多い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	外出時の写真やホームでの状況等を書いて毎月の請求書と一緒に送りし、来訪時には管理者や職員がお話しし、体調変化等は電話でお伝えしている。ホーム長は“常これで良いのかな”という思いに立ち戻り、入居者の顔を見て安心し喜んでる半面、淋しい思いもしている家族の奥深い思いを推し量り、職員が買い物の際に家族に偶然お会いした時も、近況報告をし安心して頂けるよう努めている。新入職員は行事の際に管理者が紹介したり自己紹介を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や不満、苦情等を率直に言って頂けるよう、入居時や来訪された時等、常に声かけをしているが特にご意見等は頂いていない。ホーム長は“家族が後ろめたい思いを持ちながら面会に来られているかもしれない”という事を常に意識し、家族の思いを理解し察して、笑顔で心がけ言葉使いに気をつけて対応するよう職員に伝えている。市や国保連等の相談窓口も繰り返し説明し、苦情等の申し出があれば全職員で考えて対応する体制は整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム長は馴染みの関係が大切と考え、ユニット間の職員異動も行わないようにしている。休みの希望に極力応じるようにし、系列事業所と合同で年2~3回食事会や職員親睦の場を設けストレス解消に努めている。新任研修をホーム長の自宅でカリキュラムに沿って実施し、入居者の情報提供や勤務に慣れる迄、先輩職員が夜勤も含め実地指導を行い、ケアや声かけが出来る限り従来と変わらないよう努めており、入居者が落ち着かれない場合等は、時々に応じた声かけや顔馴染みの職員が対応を行っている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長が業務の合間等にケアに関連付け、最新の話題を知識として話し、系列事業所と合同で権利擁護や、月1回の西海地区ケア研究会に勤務外の職員は参加し、協力病院や保健所、協議会等が主催する口腔ケア、レクリエーションや感染症について等、希望者が参加し伝達研修をしている。事業所全体の研修計画はあり資格取得に対する情報提供や、勉強したいという積極性に対し支援できる体制を整え、職員の立場や希望に沿いながら、目標設定を行っているが一部分になっている。	○	内部研修を今後も継続的に行っていくと共に、ホーム長自身の経験を基に資格取得の為の支援を考慮しており、更に積極的に取り組む予定である。個々の職員の立場や経験に応じた育成計画を全職員について作成され、段階的に力をつけていかれる事に期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長やホーム長は同業者との交流に積極的に取り組んでおり、地域の6事業所と合同で“家族介護教室”の開催や、西海地区ケア研究会の研修会や事例検討会、懇親会に参加している。管理者が相互訪問や見学をされ、積極的な意見交換等行っている。	○	相互訪問・見学の受け入れ体制は整えているが、ホーム職員の見学等の取り組みの継続については検討していく予定である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム長・管理者が自宅や病院に伺って、本人や家族とお会いしてお話したり見学に来て頂き、必要によっては主治医から情報を頂いたりしながら、安心して頂けるように努めている。入居後も家族や顔馴染みの友人に頻りに訪問して頂いたり、面会の為に送迎を行う等、入居後も家族も安心して生活して頂けるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者からもちの丸め方、ちまきや練り柿の作り方等や礼儀作法を教えて頂いたり、野菜の収穫方法や戦争中の暮らしや生活の知恵等、日々の会話の中で教えて頂いている。夜勤明けの時「昨夜はきつかったね、大変やったね、ありがとう、あんたがおってくれて良かった」等、ねぎらいや励ましの言葉で元気づけられている。職員は「嫁・姑の関係」の様で、一緒に過ごして教えて頂き支えられていると感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動・表情から入居者の思いを感じ、生活歴等を家族からお聞きしたり「こんな時はどうしていましたか」と尋ねたり、皆で話し合い出来る事やしたい事を選んで貰い望む暮らし方や、して欲しいと感じている事に対し常に入居者と一緒にやっという姿勢で支援している。嚥下困難があり摂取量が減少し点滴・入院治療を勧められた時も、ご希望により通院を行い調理の方法の工夫や栄養補助食品を利用し、約4か月で普通食を自力摂取できるようになった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族のご意見を伺ったりアセスメントにセンター方式を取り入れ、全職員で話し合い計画に反映させている。入居者一人一人の思い等を踏まえ“その人らしく暮らす”視点で課題や目標を記載しているが、“地域で暮らす”視点が盛り込まれていない方もいる。行動障害を表す言葉や専門用語を避け入居者が言われた、馴染んでいる言葉に置き換えたりしているが、その時の思いへの対応が難しい部分があり、現在行っているケアの全てが計画に記載されていない事もある。	○	入居者それぞれの方に応じた地域との関わり方を検討されると共に、実施されているケアを全て計画書に記載していく事で、入居者の生活状況も家族の方へ伝わり易くなっていくと考えられる。支援の内容が具体的に記載され、更に計画が充実されるよう期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングを3ヶ月毎に行い、計画を見直しているが設定時期の前でも、入居者や家族の要望や状態に応じて話し合い、臨機応変に計画の見直しを行っている。新たな要望や変化のない入居者についても、毎月計画の変更の必要性について検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取っており、協力医療機関の医師と何時でも電話で相談でき、往診して頂いたり出来る範囲で緊急対応して頂ける。家族旅行の準備や日程調整、ケアの仕方をお伝えしたり、入居者の入院時に職員も病院へ伺い援助をしたり、家族の面会時や法要の時の送迎を行っている。地域の方の入所や介護認定手続き等の相談に応じている。	○	短期利用共同生活介護のサービス開始に向け、準備を検討中であり今後、更に入居者・家族が安心して暮らし続けていく為の取組み、地域の方々に対する支援に期待していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望をお聞きし同意の上で、理事長・ホーム長の旧来からのかかりつけ医の協力医療機関で受診され必要に応じて往診して頂いたり、情報交換や相談もしやすく細目に行っている。専門医の受診が必要な時も含め常に職員が通院介助を行い、受診結果に変化がある時には速やかに報告しているが、特にない場合は来訪時にお話ししている。家族だけで受診された場合も受診結果をお聞きし全入居者について把握できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期等にホームで対応できる範囲や方針をお伝えし、どのように看取りをするか等家族の要望や必要に応じて家族や医師・看護師・職員と共に話し合い方針を決めている。看護職員がいない為、医療行為が必要になってくると難しい部分もあるが、ホームでの生活を希望される時は医師・看護師の指導を受けながら出来る部分が行い、思いに沿って支援している。入院を希望された時も職員が病室へ通い、食事介助・清拭・体位交換・水分補給や、夜間泊まり込んで看取りの支援を行ったりしている。	○	医療が主体となったターミナルケアが必要となった時に、事業所としてどこまで対応していけるのか、どのように対応するのか等の方針や方法についても、その都度、家族相談しながら医師・看護師・職員と話し合い、対応していきたいと考えており今後の取組みに期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「○○のご飯はあるかね、残しておかんと」と繰り返し言われる時も、否定や指導的な言動はせず、その都度対応しているが、他の入居者の不安につながっていく事もあり、家族に願って来て頂き、対応して頂いている間は落ち着かされている。誘導の声かけや介助時も入居者の自尊心・羞恥心に配慮しさりげなく行っている。全職員が個人情報保護法について理解し、個人情報の書かれた書類等の保管・処理状況も適切に管理され、情報漏洩防止に留意している。	○	入居者の繰り返しの言動にその都度対応しているが、職員が一人の時に対応に時間を要す事もあり、どのように対応し見守り続けていくか方向性を検討中であり、今後の取組みに期待していきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが取れるよう声かけ・誘導は行いが無理強いはせず、様子を観察しながら天気の良い日のドライブや散歩、案山子コンテストや近くであった芸能大会を見に行ったり、公園やホームの前で弁当を食べて気分転換を図ったりしている。本人の気分や体調に合わせ健康に支障のない範囲で、納得される迄ゆっくり食事や入浴、家事の手伝いをして頂き、ご希望を表わされない方も家族からの情報や表情を見ながら希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しや味見、盛り付け、後片付けや頂いた柿を皆でつるし柿にしたり、ふくれ饅頭のアんこ詰め等できる事を職員と共に行い、作る楽しみ・食べる楽しみを味わって頂いている。地域の方や家族から野菜や果物の差し入れや、畑で収穫した野菜や旬の食材、押し寿司、かんころもち等採り入れている。職員も一緒に食事をしたり盛り付けの工夫や、おにぎりを作って玄関前で昼食を摂ったり公園で弁当を頂く等、食事を楽しめるような支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間・回数がある程度決めているが、殆ど毎日お湯を準備をしているので、希望に沿って対応できており、入浴されない日は足浴を実施している。体調に無理のない範囲で入っている時間や湯温等、好みに合わせて対応している。一人ずつ入浴して頂いたり危険のない部分については浴室外から見守りをしている。柚子湯や菖蒲湯等季節を感じさせるものを取り入れたり、入浴を嫌がられる方は時間を開けて声かけしたり、入浴剤を使用し楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	短歌が好きの方に入浴時に声かけをし1首詠んで頂いたり、太鼓に合わせて唄う盆口説きに合わせて踊ったり、歩行困難な方も手踊りで楽しんで頂いている。若い時に家事をされていた男性の方に野菜の皮むき等の下ごしらえをして頂いている。自分が職員と思っておられ、仕事として認識されている方の気持ちを尊重して関わっている。入居者一人ひとりに合った役割や楽しみ事を持って頂き、活力を引き出せるよう積極的に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前行っていたスーパーマーケットに行ったり、食材の買出しに行きつけの店に出掛けたり、天気の良い日は馴染みの海や公園にドライブしている。散歩の時はご近所の方へ挨拶したり、敷地内の畑の見回りや花壇の水やりをしたり、外出が難しい方も紙風船バレーや輪投げ等で体を動かしたり、玄関先の長椅子に座りホームで飼っている犬と遊んだり、日光浴等戸外に出て気分転換が図れるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	19:00~7:00迄の防犯上の施錠以外は自由に出入りができ、片方のユニットは全室が見通せる造りで、他方のユニットも職員が作業する場所や、立つ向きを工夫したり声を掛け合っている。入居者が落ち着かなくなる時間帯や、傾向を予め把握し対応している。入居者が1人で外出された時も職員がそっと見守り、ご近所の方も見守りの協力や入居者を見かけた時は連絡して頂いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	秋の防火月間で消防署から依頼があり入居者が見守る中、一部の職員と地域の方・消防署・消防団で、入居者個々の避難方法をシミュレーションしながら訓練が行われた。地域の消防団の方にホーム内を見学して頂き避難方法の指導を受け「何かあったら駆けつけてください」とお願いした。ご近所の方にも声をかけ見学に来て頂き、地域の協力的体制作りを努めている。災害に備え水タンクは常設しており、保存食品を含め3~5日分は常時準備している。	○	災害時に備え寒さをしのぐ為の物や熱源について検討する事や、地域の方に入居者の避難先での見守りをお願いしたいと考えられている。地域の方にも避難訓練に参加して頂き、体験を積み重ねられる事で冷静・迅速な行動に繋がっていく。今後の更なる取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みに合わせ調理方法や味付けを変えたり、別皿に盛ったり飲み物の種類を選べるようにしている。チェック表を活用し食事・水分の摂取状態の把握をし、食が進まない時に軟飯にしたり個別に対応している。栄養士資格を持つ計画作成担当者が、年に4回栄養バランスや過不足のチェックを行い、献立毎に具体的にアドバイスしている。書籍や資料を参考にしたりアドバイスを基に、職員で話し合いながら献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの長椅子は常に数人が寛いでおり、タンスや三面鏡等、家庭にある懐かしい家具や道具で家庭的な雰囲気を心掛けている。クリスマスの飾りや庭に咲いている草花を花瓶に挿したり、季節を感じられるよう配慮している。一方のユニットでは明り取りの窓から柔らかな自然の光が射しており、短時間ずつ頻回に換気を行い空気の淀みや臭いが籠らないよう、居心地良く過ごせるような気配りを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドはホームの備え付けがあるが、本人や家族と相談しながらタンスや椅子、家族の写真や思い出の品を持って来て頂いたりしている。雑誌や新聞が置いてあったり、手作り作品等が飾られていたり、その方らしい部屋で居心地良く過ごせるようになっており、家族の方に馴染みの物を持って来て頂くよう繰り返しお伝えしている。		